

ICBA Newsletter

ダンさん来日報告	1～2
渡辺茂男ライブラリー	3
新設文庫紹介（海外）	4
新設文庫紹介つづき、新刊のお知らせ	5
ICBA 総会 国内ニュース	6
My Bookshelf	7
国際児童文庫協会	8

国際児童文庫協会 ニュースレター No 73, January. 2014



ダンさん日本滞在中の足跡

- * 湘南エコー文庫訪問
- * アルカンシェル文庫訪問 3/2
§
- * ダンさんを囲む会 3/4
§
- * ハンプティダンブティ文庫 OG に
よるダンさんを囲む会
- * 福音館書店訪問
（松居直さんと会談）3/5
§
- * リトルインディアン文庫訪問 3/6
§
- * きたむらさとしさんと会談
- * ハンプティダンブティ文庫訪問 3/8
§
- * 児童書専門店ナルニア国訪問
- * 伊藤忠記念財団授与式出席 3/12

～Mrs. Dunn's Magic～

真剣なまなざしでダンさんの話に聞きいる子どもたち

2013 年 3 月、国際児童文庫の最初の文庫であるだんだん文庫の創始者であり、国際児童文庫協会名誉会長のオパール・ダンさんが来日し、国内の全文庫を訪問しました。ダンさんが絵本を読み始め、子どもたちに言葉をかけると、子どもたちは真剣なまなざしでダンさんの話に集中します。そして生まれるたくさんの笑顔。その様子は、まるでダンさんの魔法にかかったようでした。またお母さんたちのさまざまな質問に次々と答えてくださるダンさん。82 歳とは思えないパワフルな行動力と明確な助言にパワーをいただいた方も多かったことと思います。



文庫フェスティバルを行いました

2013 年 1 月 27 日（日）横浜市青葉区山内地区センターにて、国内で活動している 4 文庫（ハンプティダンブティ文庫、リトルインディアン文庫、湘南エコー文庫、アルカンシェル文庫）が集まり、日ごろの活動を発表し合いました。後半は、音楽ディレクターのみっきいと運営委員の松浪さんのリードで国歌当てゲームを楽しみました。

ダンさんを囲む会

2013.3.4 Mon.

2013年3月4日、都内のレストラン“Tani”にて、サポート会員、OGなど懐かしい顔が集まり、ダンさんを囲む会が催されました。



ダンさんから、30周年を迎えるUK支部や現在のUKの文庫の様子を伺った後に、一緒にだんだん文庫を始められた山内玲子さん、そして前ICBA代表の永森裕子さんにスピーチをしていただきました。

懐かしい日々を思い起こしながら、文庫をとりまく環境は変わっても、ますます文庫活動が必要になっていることを強く意識しました。



山内玲子さんのスピーチより

英国のIC文庫に参加している322の家庭のうち、なんと82%にのぼる、273の家庭が国際結婚とのこと。この驚くべき事実は、時代の変化と文庫のニーズの変化の大きさをまざまざと語っているように思われます。とはいえ、文庫活動の主な目的は、基本的には変わらない、つまり、子どもたちがいずれは日本に帰るのか、それとも英国に住み続けるのかに関わらず、日本と日本語に親しみ、日本人としての文化的アイデンティティを保つ、ということなのです。Show & Tellなどの文庫活動や、コッツウォルズでの夏祭りなどのイベントについてのお話は、いい刺激になりました。国際結婚の家庭の子どもたちにとって、IC文庫の役割はほんとうに大きいのです。



『にほんご』『わたしのゆたんぽ』全文庫送付について

オパール・ダンさんが来日された際に、IC文庫開設当初から応援してくださっている福音館書店相談役であり、児童文学者の松居直さんにお会いしました。ダンさんは松居さんに海外の文庫のいまをお伝えし、そこに集う子どもたちに日本語のおもしろさ、豊かさ、奥深さを伝える本をご紹介頂きたいと伺ったところ、松居さんは『にほんご』を薦めてくださいました。



この本は「読み、書き」よりも「話す、聞く」を重視しています。声の文化が豊かになってはじめて文字の文化が成り立つからです。さらに絵本とは大人が子どもに読んであげるもの、本を読んでもらうのは子どもにとっては遊びで、言葉そのものが喜びにつながっていくことなのです。

松居さんの言葉とともに『にほんご』を、そしてきたむらさんの『わたしのゆたんぽ』をすべての海外の文庫に届けたいというダンさんの想いが形になりました。日常生活の言葉を大切にしている『にほんご』は、まず大人がよく読んで改めて日本語というものを知ってください。それから子どもたちと一緒に美しい日本語を楽しんでみてくださいね。





わたなべ し げ お

渡辺茂男ライブラリー誕生

9月の晴れた日に、渡辺茂男さんが長い間暮らしていた多摩のお宅にお邪魔してきました。

翻訳のための原書の数々、本作りのための資料、絵画、手紙など、どの部屋にもかつてのお仕事を思い起こさせるものがあふれ、渡辺茂男さんの子どもに対する強い愛を感じずにはいられませんでした。そして仕事部屋には、窓からやわらかい光が机に注ぎ、ここからたくさんの本が生まれたのだと思うと胸がいっぱいになりました。みなさんご自身の思い出の中に、現在活動されている文庫の本の中に、渡辺茂男さんのたくさんのお仕事を目にされているのではないのでしょうか。

そしてこのたび、息子さんである鉄太さんから、以下のような大変うれしいお申し出がありました。すべての文庫に、「渡辺茂男ライブラリー」の本をお送りいたします。また奥様のチャコさんが、このライブラリーの本のためにシンボルを作ってくださいました。その素敵なロゴを添えて、お届けいたしますので、どうぞ、楽しみにお待ちください。

IC 文庫の仲間みなさまへ、



メルボルンでは日ごとに夏めいて参りました。みなさまは、いかがお過ごしですか。

この度は、ICBA 国際児童文庫協会のご厚意で、世界各地の IC 文庫に、私の父であり子どもの本作家／翻訳家であった渡辺茂男（1928-2006）の著書をお届けできることを心から嬉しく存じます。

渡辺茂男は、絵本『しょうぼうじどうしゃじふた』や幼年童話『もりのへなそうる』を書いたり、「エルマーとりゅう」シリーズや『どろんこハリー』の翻訳などを手がけた作家です。生涯に300冊程の子どもの本を出版しました。

父は、若い頃アメリカで児童図書館学を学び、帰国後は執筆の傍ら、児童図書館員の育成や図書館の整備などに従事しました。また、子どもの本を通じた国際交流にも身を投じ、欧米のみならず、アジア、アフリカ、中近東などの作家や作品を日本に紹介し、一方で日本の作家や作品を世界に紹介しました。そして、機会あるごとに ICBA の活動も応援していました。

父は、子どもに物語を語り、美しい絵本を読んでやることは、その心に緑の森を育てることだと信じていました。今後も不定期ではありますが、そんな父の著書を ICBA にお贈りし、みなさんの文庫のお役に立てたいと考えております。

みなさんの文庫がいつも賑やかで、笑いに満ち、夢一杯で、そして健やかであることを祈っております。



メルボルンこども文庫主宰

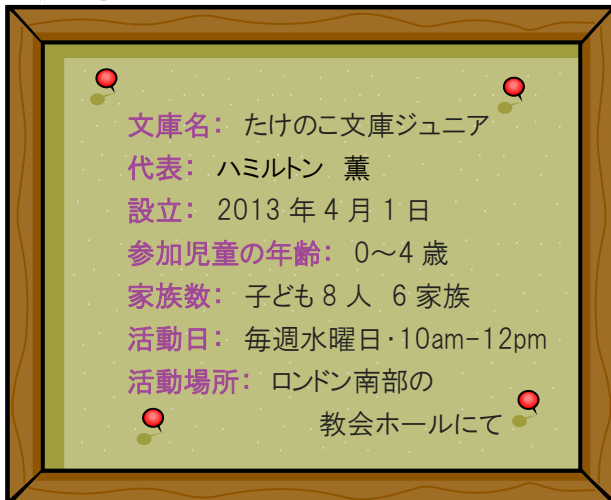
渡辺鉄太



Welcome to ICBA!

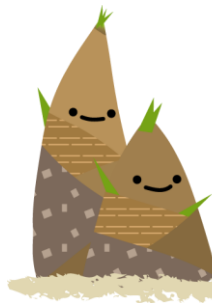


イギリス Clapham・たけのこ文庫ジュニア



文庫の特徴・紹介・メッセージなど: マルチカルチャーな環境で育っていく子どもたちにとって、自分のルーツを知ることは、将来自己を確立させるときの手掛かりとなります。言語のみならず、文化、生活様式、自然、歌など、様々なことを学ばせるにあたり、子どもたちにとって一番楽しい手段が絵本であると考えます。楽しく日本語に親しめる環境を与えることで、自然な形で日本語を使い、交流できる場所を提供することを目標としています。

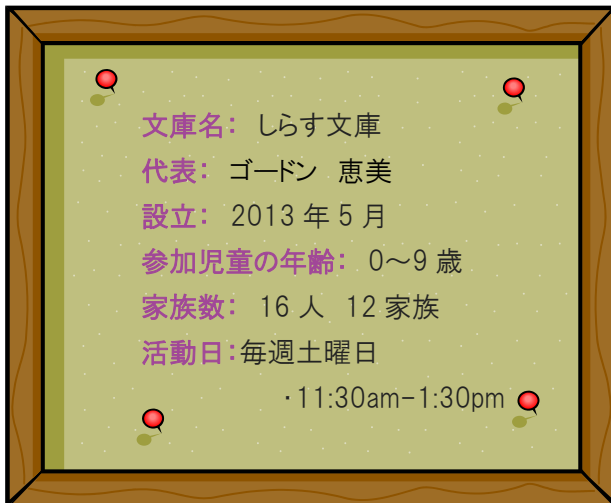
活動内容: 絵本、DVD、紙芝居の貸出しのほか、日本語の絵本の読み聞かせ、日本の歌、日本の季節の行事にあわせたクラフトワークや遊びを行っています。これ以外に復活祭、ハロウィーン、クリスマスなどイギリスの行事も取り入れています。



簡単なクラフトワークをしています！



イギリス Cambridge・しらす文庫



文庫の特徴・紹介・メッセージなど: しらす文庫は、2013年5月にケンブリッジのマレイ・エドワーズ・カレッジ内にある日英の教育・文化交流の場を提供している『嘉悦センター』内の図書室をお借りして始めました。文庫名の由来には、お白州の白い小石のように子どもたちが切磋琢磨し、また、ケンブリッジ大学に学び、第二次大戦後の占領軍より『従順ならざる唯一の日本人と』呼ばれた白洲次郎のような気骨のある国際人として育って欲しいという願いが込められています。またケンブリッジ大学があるという場所柄、研究にいらっしやっている日本人の方を、子ども向けあるいは保護者向けのゲストスピーカーに迎えることもあります。地の利を活かした文庫活動を続けたいと思っています。

Radio Taiso~!



お姉さんが本を読んでくれました！

活動内容: 日本の年中行事や季節の行事を考慮した月テーマを決め、それにそった読み聞かせ、紙芝居、工作や特別活動(漢詩の読み比べ、カルタ、百人一首の坊主めくり、お散歩など)や、ラジオ体操を取り入れています。参加者全員でお弁当をいただくことで保護者間の情報交換の場と、子どもたちにはいろいろな日本語に接する機会を提供しています。また、入会時にラジオ体操カードと図書カードを渡し、カードがいっぱいになったら、ステッカーのご褒美を進呈します。活動の最後には皆で掃除をして帰ります。



イタリア Firenze ・ マンマ文庫

文庫名: マンマ文庫

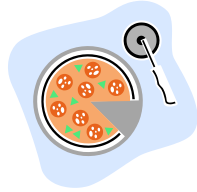
代表: 松井純子

設立: 2012 年春

参加児童の年齢: 2~7 歳

家族数: 7 家族

活動日: 毎週木曜日 午後



七夕の折り紙ワークショップイベント

活動内容: 集まりではまず絵本を数冊読んで、その後にかたや折り紙など日本の遊びを取り入れています。親達が教えるというよりも、あまり肩肘張らずに子どもと一緒に楽しんで、長く続けていきたいと思っています。



今日の
紙芝居は
なんだろう？

文庫の特徴・紹介・メッセージなど: 活動を始めた頃はメンバーの自宅に集まっていたのですが人数が少しずつ増えて、もう少し広い場所が必要という事で、近所の児童館とお話をして正式に一部屋を借りる事が出来るようになりました。2ヶ月に一回程オープンデイをもうけて、普段児童館に集まる地元の子ども達にも日本文化に触れてもらう機会をつくっています。季節に合わせたイベントや、折り紙を使ったワークショップ、缶ぽっくり、などなど好評でした。

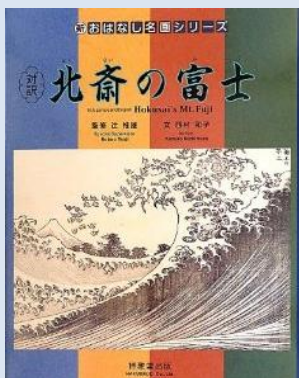
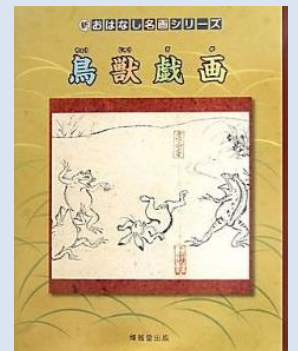
本の紹介

博雅堂の「新・おはなし名画シリーズ」

『鳥獣戯画』『北斎の富士』

日本の個展アートを手軽に楽しめる大型の絵本です。

『鳥獣戯画』は京都の高山寺に伝わる絵巻物で、猿、兎、蛙などが人間のように、水遊びや弓の腕くらべや相撲に興じたり、お葬式をしたりする様子がいきいきと描かれています。鳥羽僧正によって描かれたとされる絵は自由闊達でユーモラス。漫画のルーツともいわれています。



『北斎の富士』は、江戸の天才浮世絵師、葛飾北斎が 150 点以上も富士山の絵を描きつづけた生涯を語ります。有名な「富嶽三十六景」とほとんど知られていない絵本「富嶽百景」から 27 点の版画、そして絶筆と思われる肉筆画 1 点がり上げられていて、いずれも構想、構図、色彩のすばらしさが印象的です。世界遺産に登録されて以来、富士山にはますます熱い視線が注がれていますが、この山に魅せられた北斎の作品の魅力をあらためて味わってみてはいかがでしょうか。(OG 山内玲子)

(ともに 文・西村和子 出版・博雅堂 英訳・山内久明、山内玲子
英訳監修・パトリック・ケアリー 価格: 2000 円+税)

第 43 回 ICBA 総会

7月9日(金) 東京ウィメンズプラザにて
第43回 ICBA 総会を開催しました。

2012年6月1日から2013年5月31日までの活動と会計が報告され、出席者により承認されました。
今年の総会は、国内の文庫メンバー、OGなどの他に、元UKのびのび文庫のアドバイザー久本直美さん、アメリカ・ロサンゼルスで文庫活動を行っている武津^{ふかつ}さんが参加してくださり、さまざまな情報を交換することができました。



絵本を片手にお話する戸川陽子さん



トークイベント「子どもたちとの絵とお話の時間」

後半は、長い間サポート会員としてICBAを支えてくださっている戸川陽子さんに、ご自身の絵本の記憶と経験談、絵本を読み語るということについてお話していただきました。またたくさんの英語絵本を紹介してくださり、多数の“まだまだお話を聞きたい”という声がありました。



今年も盛会のうちに終了しました

～お話をきいて～

「子どもたちが語り手を好きであったり、受け入れたりすることが読み聞かせ、語り聞かせにおいて大事」という言葉が心に残りました。

国内ニュース

<http://www.icba-1979.org>

***7月30日(火) リトルインディアン文庫&アルカンシェル文庫** 今年も図書館で読み聞かせ会開催
今年もまた川崎市立麻生図書館の申し出をうけ、図書館を会場にして、英語、フランス語、日本語での読み聞かせ会を行いました。今年は『くまさん、くまさん、なにみてるの』を三カ国語で読み聞かせました。一般応募者が多数のため、二回に分けて読み聞かせ会を行うという好評ぶりでした。

***9月27日(金) 文庫ミーティング**
定例の文庫ミーティングを行い、文庫活動の情報交換、今年度のフェスティバルの開催について話し合いました。お休みしていたマロニエ文庫の再開という嬉しいニュースがありました。

***10月20日(日) 「みやまえ 本とお話の一週間」に参加**
宮前区役所を会場の毎年行われている「みやまえ 本とお話の一週間」に参加し、文庫OGの秋元七生さんが絵本の読み聞かせをしました。当日は、ハンプティダンブティ文庫の子どもたちによる読み聞かせも行い、近隣で活動する文庫の方や親子連れに楽しんでもらいました。



恒例になった図書館で合同読み聞かせ会

***11月23日(土) 第9回青葉区区民交流センターまつり参加**
ICBA運営は、青葉区区民交流センターまつりにフリーマーケットと英語ワークショップで参加しました。天気に恵まれ屋外での外国語絵本のフリーマーケットは大人気。いろいろな方と直接話すことで、国際児童文庫協会の活動を知っていただきました。また屋内では、英語の歌、絵本読み聞かせ、クイズなどのワークショップを運営の仁志田が担当しました。

直接お話することの大切さを感じています

3/27(水)にUKのびのび文庫の百田さんと元アドバイザーの久本さん、7/21(日)にはイタリア・ローマのりんご文庫近藤さん、オリーブ文庫杉山さん、松井さんにお会いしました。
銀座の児童書専門店ナルニア国で絵本を手にとりながら専門スタッフのアドバイスを伺い、その後は場所を移してお国の事情や文庫の運営についてのお話を伺いながら情報交換をしました。直接お会いすることで信頼関係が深まり、知り得ることも多い機会です。お忙しい一時帰国とは思いますが、ぜひご連絡ください。

MY BOOKSHELF

The official voice of ICBA



このコーナーは、ICBAの仲間の本棚から、絵本だけでなく幅の広い分野の本を紹介していきます。さて、気になった本はどれでしょうか？

あなたの国にも“ゴハおじさん” いませんか？

『ゴハおじさんのゆかいなお話』

ISBN: 978-4198628987

デニス・ジョンソン・デイヴィーズ/再話/著 ハゲナムディ・モンメッド・ファトゥーフ/絵
ハーニ・エル・サイド・アハマド/絵 千葉茂樹/訳 徳間書店 2010年 1785円(税込)



エジプトで何百年も語りつがれ人々に愛され続ける、ゆかいなゴハおじさんのお話。自分が売りに出したロバを買ってしまったたり、態度の悪いおふろ屋さんの世話係をやりこめたり…？ ときにまぬけ、ときに賢いゴハおじさんの、ほのぼの笑えるお話が、15話入った楽しい読み物。エジプトの職人によるユーモアたっぷりの布製原画を再現したカラー挿絵入り。

エジプトではゴハだが、アラブ諸国ではジューハ、トルコではホジャ・ナスレディン、イランではムラ・ナスルディンと呼ばれ、中東諸国を中心に広く長く親しまれている。読んであげるのであれば、未就園児でも楽しめるし、短いお話なのでひとりで読み始めたばかりの子どもでも楽しめるはず。あなたの国にもこんなお話があるので？ (運営 海保由子)

復刊しました！

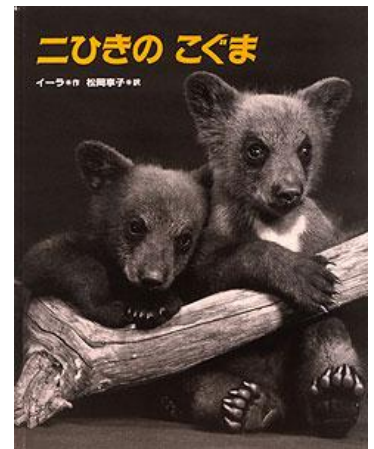
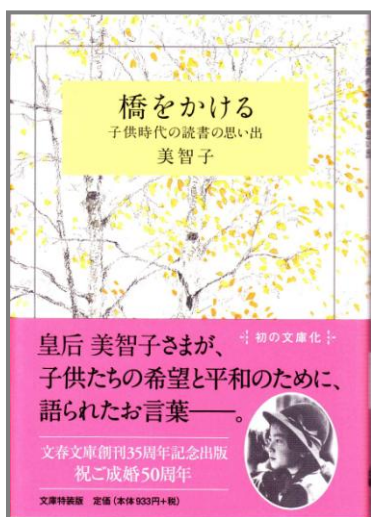
『二ひきの こぐま』

ISBN: 978-4-7721-0100-4

イーラ著 松岡享子訳 こぐま社 1990年(2013年復刊) 1575円(税込)

表紙の二ひきは、冬の間に生れた男の子と女の子のこぐま。おかあさんがはちみつをとりでかけたすきに、いいつけを守らず、外にでかけてしまう。なにしろ彼らにとって、たんぽぽの綿毛も、高い木も、池も、牛や馬たちなどの動物たちとの出会いも、初めてで興味津々。最後はまいごになり、おなかをすかせてねむりこけてしまうが、無事、おかあさんと会うことができる。最終ページのこぐまの表情に注目。テディベアのモデルだそう。

オーストリア人イーラは、1911年ウィーン生まれの女性写真家。この作品は彼女の初めての写真絵本で、白黒写真がこぐまの表情と動きをあますことなく伝えている。また唯一彼女が文章も書いたものでもある。出版社は違うが『85枚の猫』『ねむいねむいちいさなライオン』(徳間書店)も同じ白黒写真の動物絵本。大きいサイズで、どの年齢の子どもたちにも好まれる。(運営 海保由子)

**文庫活動の折々に、くりかえし読みたい、大人のための珠玉の一冊です。**

『橋をかける 子供時代の読書の思い出』

ISBN: 978-4-16-775381-8

美智子 文藝春秋 文春文庫 2009年 980円(税込)

1998年インドのニューデリーで開催された国際児童図書評議会(IBBY)の第26回世界大会において、美智子皇后さまが基調講演されたことを覚えているだろうか。その原稿と、2002年スイスのバーゼルで行われたIBBY50周年記念大会の開会式でお祝いのご挨拶された原稿が、末盛千枝子さんの注釈ほかを含めて収められた一冊。美智子皇后の講演は、ご自身の子ども時代の読書の思い出を、大会テーマ「子どもの本を通しての平和」に沿って話されている。子ども時代の読書は、「それはある時には私に根っこを与え、ある時には翼をくれました。この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、自分の世界を少しずつ広げて育って行くときに、大きな助けとなってくれました」とのこと。この言葉を読むだけでも、文庫活動を続ける意味を感じることができる。(運営 海保由子)

International Children's Bunko Association

国際児童文庫協会は、

海外駐在、帰国、国際結婚、移住などによりバイリンガル・バイカルチュラルな環境に育つ子どもたちのための文庫開設や文庫活動を支援するボランティア団体です。
1979年の創立から35年間、活動を続けています。



I C Bunko

国際児童文庫は自主活動グループですが、文庫活動の可能性を信じる方、それに共感する世界中の仲間によって支えられています。そして未来の文庫を開設する“タネ”へとつながっています。

**ICBA 会員
募集！**

【ICBA 会員】

文庫メンバー1500円/年

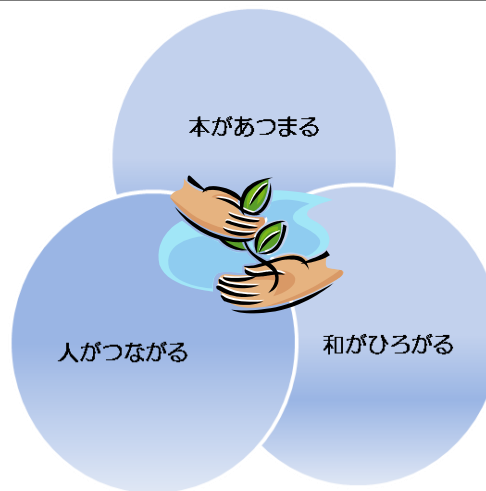
【サポート会員】

個人年会費 1500円

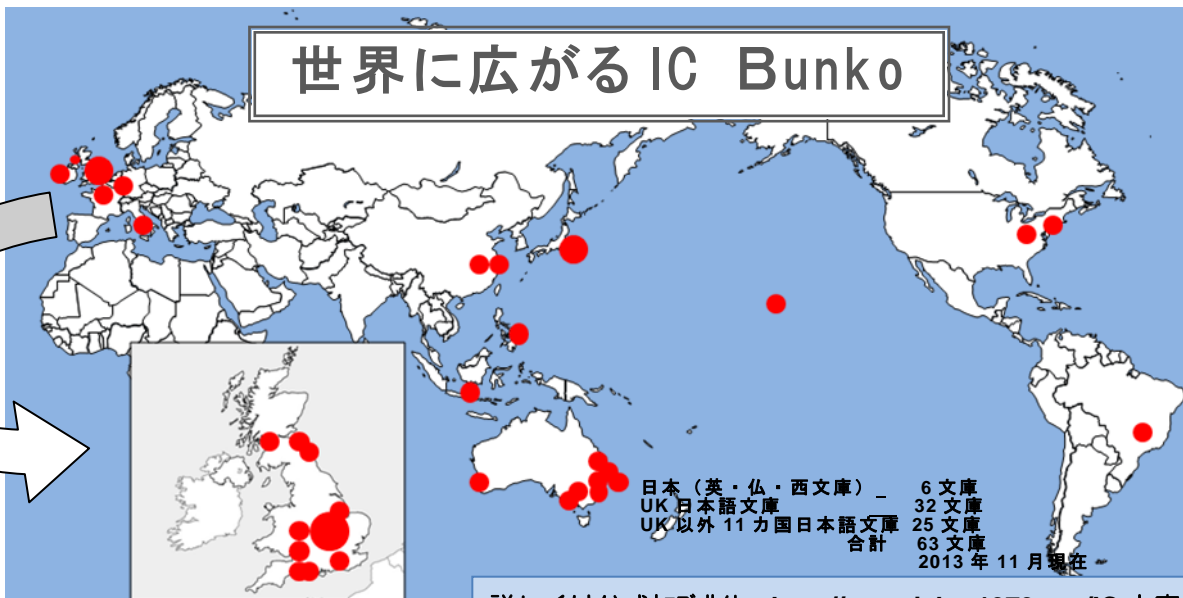
団体年会費 5000円

(一口)

*みなさまの会費によって
ICBA は運営され、また新たな
文庫開設への支援となります。

ICBA の活動がめざすもの**支援活動例**

- * 文庫開設支援として
ウェルカムバック選書と送付
- * きのこブック送付
(=会費に応じた本の送付)
- * ホームページ管理運営、ニュー
スレター作成送付など
本の紹介、本の寄贈、助成に関
する情報提供
- * 文庫運営の相談
- * 紀伊國屋書店、文庫 OG、個人の
方々からご支援いただいています。

世界に広がる IC Bunko

詳しくは公式ウェブサイト→[http://www.icba-1979.org/IC 文庫/](http://www.icba-1979.org/IC%20%E6%96%87%E5%AD%A6/)

国際児童文庫協会 (ICBA) への入会お申し込み・お問い合わせは

E-mail: icba@g00.itscom.net もしくは TEL/FAX: 045-903-1744

URL <http://www.icba-1979.org/>

郵便振替 00190-8-10437 or 三菱東京 UFJ 銀行 渋谷支店 (普) 6450386

口座名義はいずれも 国際児童文庫協会

ICBA Newsletter No.73 国際児童文庫協会ニュースレター 2014 年 1 月号

発行: 丸山明栄 編集: 海保由子 仁志田華子





ICBA Newsletter

Vol.73, Jan. 2014

Mrs. Dunn's visit in Japan from March 2nd to 19th, 2013

Mrs. Dunn visited 4 domestic Bunko and Mr. Tadashi Matsui(Fukuinkan Shoten Publisher's Senior Advisor), met Mr. Satoshi Kitamura(children's picture book author and illustrator) during her staying from March 2nd to 19th, 2013. She also gave a speech at Itochu Memorial Foundation Award Ceremony. The picture on the right was taken at Shonan Echo Bunko. Once Mrs. Dunn sat down and launched into a reading session, children couldn't take their eyes off her and their faces were filled with smiles. At snack time, Mrs. Dunn talked to mothers and gave clear advices on their concerns and questions. Her positive thinking and passion about Bunko seemed to inspire mothers an infectious enthusiasm to engage in reading with children.



An Afternoon with Mrs. Dunn

Monday 4th March, 2013

On March 4, a luncheon with Mrs. Dunn was held at Restaurant Tani inviting ICBA friends and OG. Mrs. Dunn talked to them about the ICBA UK branch, which celebrates its 30th anniversary, and its 33 Japanese bunko in

UK. And then Mrs. Yamanouchi, one of the founding members, and Mrs. Nagamori, the former representative of ICBA, talked about the memories of the old days worked with Mrs. Dunn at Dan Dan Bunko. Indeed, there have been many changes in the last 30 years. Listening to the speeches and meeting many familiar faces after so many years, we were convinced that Bunko would have an even more important role in presenting books and providing opportunities to talk with children.



ICBA REPORTS From Japan

Jan 27th ---Bunko Festival was held at Yamanouchi District Center. Four IC Bunko (Humpty Dumpty/Little Indian/Shonan Echo/Arc-en-ciel) got together and all the Bunko did their own uniquely fabulous performance. And then we struggled through a guessing game of national anthem which Mickey and Mrs. Matsunami from ICBA board members played. The festival was rounded off by them who accompanied everyone as they sang songs.

July 30th ---Storytime in English, French, and Japanese by Little Indian and Arc-en-ciel Bunko at Aso Library in Kawasaki City. They read a picture book called, "Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?" in 3 different languages.

September 27th ---IC Bunko Meeting was held and Bunko members exchanged information about their activities and ideas and discussed about next Bunko festival in February. We had great news from Marronnier Bunko, which has not been active for a while, about restarting their bunko activities.

October 20th ---ICBA joined the annual event in Miyamae-ku, in Kawasaki City, "Miyamae Book and Story for a Week ". Ms. Nanami Akimoto, a former bunko member, read picture books and Humpty Dumpty Bunko children did storytelling for the audience who are not IC bunko but neighbor bunko members and families.

November 23rd ---ICBA board members had a flea market and read aloud in English for children at the 9th Aoba city Festival. It was a good chance for us to introduce ICBA to the wider audience. Humpty Dumpty Bunko read picture books and Ms. Nishida from ICBA board member did an interactive storytime in English.



Welcome to ICBA!



UK Clapham • Takenoko Bunko Junior

Name: Takenoko Bunko Junior

Leader: Hamilton Kaoru

Founding: April 1st, 2013

Age: 0~4 yr olds

Family: 6 children / 8 families

Day & Time: Wednesdays, 10am-2pm

Venue: At Church in the North of London with Japanese play group.

Activities: Programs includes storytelling, songs, seasonal crafts, and games, besides borrowing picture books, DVD, and Kamishibai. We also celebrate Easter, Halloween, Christmas, and other English holidays.

PR:

We believe that understanding one's roots is a key for the Bunko children in multicultural environment to establish one's identity in the future.

When they learn Japanese language, its culture, life style, nature, songs and other things, we think that the most enjoyable way for them is to learn from picture books. We aim to provide a fun environment for children to absorb and communicate naturally in Japanese.



[Storytime]
Can you sit still and listen to stories?



Enjoying some simple crafts!



UK Cambridge • Shirasu Bunko

Name: Shirasu Bunko

Leader: Emi Godon

Founding: May, 2013

Age: 0~9 yrs old

Families: 16 members 12 families

Days & Time: Saturdays 11:30am-1:30pm

Activities: We plan a monthly theme considering Japanese holidays and seasonal events. Along the theme, we select picture books to read, Kamishibai, arts and crafts, and related activities (Ex. Read aloud Chinese poems in both Chinese and Japanese, Karuta, and Radio Taiso). We also provide opportunities for Bunko parents to exchange helpful information and for their children to absorb Japanese while having lunch together. We give out both Radio Taiso and library cards to a new family who became our Bunko member. When both cards are completed, member will get a special sticker as a prize. At the end of the Bunko activities, we clean the place.

PR: Shirasu Bunko started in May, 2013 at the library, inside of Kaetsu Center which is located in Murray Edwards College in Cambridge. The center offers both Japanese and English educational and cultural exchanging opportunities. The origin of our Bunko name came from our wish that our children will be encouraged and competed each other to work hard like a small white marble in the white sand. We also wish our children to grow up internationally who keep their spirits like Jiro Shirasu who studied at Cambridge Univ., and who was called "The only Japanese not obedient." by the occupation forces.



Radio Taiso!



She read a story for us!



Italy FIRENZE ■ Mamma Bunko

Name: Mamma Bunko

Leader: Junko Matsui

Founding: Spring 2012

Age: 2~7yrs olds

Family: 7families

Day & Time: Thursdays, in the afternoon

Activities: First we read some picture books and then play Japanese activities like Karuta and Origami. We hope that the parents can enjoy those activities with their children naturally rather than teaching them.

PR: When we started Bunko, we got together at one of the members house but when our

members increased, a bigger space was needed. We talked to our neighbourhood recreation center and we were able to borrow one of its rooms for the Bunko space. Every other month, we have open house for children who come to the center to offer opportunities to learn some Japanese cultures. During the open house, we provide seasonal events, origami workshop, crafts with cans and more popular activities.



Tanabata Origami Workshop



Kamichibai



Books of Interest

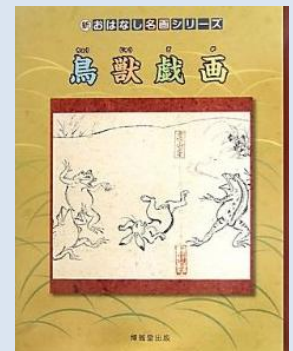
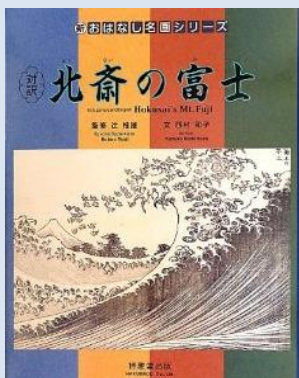
Choju Giga and Hokusai's Mt. Fuji

These books are large-format picture books on the subject of renowned Japanese classical art. *Choju Giga* (The Scroll of Frolicking Animals), produced in the 12th century by a Buddhist priest Toba Sojo, consists of a series of drawing vividly depicting monkeys, hares, frogs and other animals behaving like human beings. The brushwork is masterly and the pictures delightful. The original scroll has only pictures and no text, but this book adds a simple storyline with English translations.

Hokusai's Mt. Fuji tells how Katsushika Hokusai, the genius *ukiyo-e* artist of the late Edo Period, was fascinated by Mt. Fuji and produced more than 150 views of the Mountain. It has beautiful reproduction of the prints, some from the famous *Thirty-Six Views of Mt. Fuji* and some from the hardly-known *One*

Hundred Views of those of Mt. Fuji, all in most ingenious compositions.

His works together with those of other *ukiyo-e* artists had great influence on the Impressionist and Post Impressionist artists. The books are primarily intended for young readers, but can be fully enjoyed by anyone and with an English translation by Hisaaki and Reiko Ymanouchi, with Patrick Carey as supervisor, by non-Japanese readers as well. Published by Hakugado (Tel: 03-3950-8699). They are priced ¥2000+tax. For further details please contact Reiko Ymanouchi (alis-jp@mwa.biglobe.ne.jp)



(By Reiko Yamanouchi)

ICBA Watanabe Shigeo Library



Mr. Tetsuta Watanabe invited ICBA board members to his late father, Mr. Shigeo Watanabe's house one day in September, 2013. There are many original translated drafts, materials for books, pictures, and letters from children's book authors, illustrators and publishers at his studio. It was filled with passion and sprits of Mr. Watanabe who devoted his whole life to his works in children's books and literature.

We are very pleased to announce that Mr. Tetsuta Watanabe and his family offered to donate the books from "Watanabe Shigeo Library" to all IC Bunko. The Books with lovely logo stickers, Mrs. Chako Watanabe created will shortly arrive at your bunko. We hope you enjoy



Message from
Mr. Tetsuta Watanabe
of Melbourne Kodomo Bunko

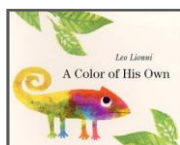
I am very happy to send out books of Shigeo Watanabe, my father, children's author/translator, to IC Bunko in the world. He believed that telling stories and reading beautiful picture books to children can help raising their hearts like a green forest.

He had published about 300 children's books in his life. It might be irregular occasion; however I would like to keep contributing his books to ICBA for IC Bunko. I pray for each Bunko to be filled with laughter, dream, and happiness.



The 43rd ICBA General Meeting and Talk Event by Mrs. Togawa

We held the General meeting on Friday, July 9th, 2013 at Tokyo Women's Plaza. IC Bunko members, OG, and supporters joined the meeting to share ideas and reports with us. After the meeting, Mrs. Togawa, who is our support member, gave a talk about her memories and experiences of picture books and shared how to read them in English to children.



Meeting with overseas Bunko members



ICBA board members had a chance to meet Mrs. Momota from Nobinobi Bunko of UK and Mrs. Hisamoto, a former Nobinobi Bunko advisor on Sunday, March 27. We also met Mrs. Kondo from Ringo Bunko and Mrs. Sugiyama and Mrs. Matsui from Olive Bunko of Italy on July 21st at Narnia Children's Bookstore in Ginza, which specializing in Children's literature.